

平成19年度 和歌山県名匠

【^{しゅ}棕^ろ櫚^{ほうき}箒^{せい}製^{さく}作】

^{くわ}桑^{ぞえ}添^{いさ}勇^お雄

【現住所】紀美野町

【生 年】昭和3年

業績及び経歴

代々、棕櫚製品の製作に携わっていた家業を継ぎ、戦後、棕櫚製品の製作を始める。先代は、綱(ロープ)を主に製作していたが、氏が箒の製作を始め、以来、箒づくり一筋である。

野上地方の棕櫚産業の起源は、江戸時代末期からと言われており、明治末期から大正期にかけ、生産は最盛期を迎えたが、パームの輸入や化学繊維の出現により棕櫚製品の生産は減少を続けており、現在、県内で鬼毛による棕櫚箒の製作技術を伝承しているのは、氏一人となっている。鬼毛とは、棕櫚皮の太い繊維で、幅20センチメートル・長さ60センチメートルほどの棕櫚皮一枚あたり5～6本しか取れない貴重な繊維であり、それを抜き集めることから棕櫚箒の製作は始まる。

平成13年度に和歌山県紀の人賞、平成18年度には財団法人伝統的工芸品産業振興協会による伝統的工芸品産業功労者褒賞を受賞するなど、その製作技術は高い評価を受けている。また、平成16年度には、棕櫚箒が、和歌山県郷土伝統工芸品に指定された。

棕櫚箒の製作は全てが手作業であり、その芸術的な様相も相まって、氏の製作する丸星印の棕櫚箒は、市場における評価も非常に高い。

また、伝統産業を守るため、来客者に対する技術の公開や製品の紹介なども積極的に行っている。